

段階確認の実施について

(1) 趣 旨

公共工事の実施にあたっては、「請負契約」に基づき、工事目的物完成のための一切の責任は、原則として請負者が負うという「自主施工の原則」が基本となっている。この中で発注者は、請負契約の適正な履行を確保するために監督職員を置いて工事現場または製作工場の立会をおこない、また、指定した工事材料の品質や、工事完了後に不可視となる部分で重要なものに限って、設計図書との適合を確認することとしている。

段階確認は、公共工事の品質の確保及び完成検査の補完のため、特に必要と考えられる施工段階の確認事項（種別・細別・確認時期）を共通仕様書において定め、原則、臨場により実施するものである。

(2) 適 用

原則として、共通仕様書に定める「段階確認一覧表」の工種に該当する全ての工事に適用する。

(3) 運 用

1. (準 備)

請負者は、施工に先立ち、種別、細別、確認時期を施工管理計画として「施工計画書」に記載するものとする。また、請負者は段階確認にかかる予定（種別、細別、確認時期）について事前に監督職員の確認を受け、「段階確認書」を作成し、保管するものとする。（提出する必要は無い。ただし、監督職員の控えとして写しを取る場合有り。）

請負者は、段階確認の実施に先立ち、確認時期毎に監督職員と日程の調整をおこなうものとする。

2. (実 施)

請負者は、段階確認の実施にあたり必要な施工管理資料（出来形、品質管理資料等）を準備するものとする。

段階確認は、原則として臨場により実施するものとするが、やむを得ず臨場確認ができない場合は、出来形管理資料及び写真等により机上確認とすることができる。また、監督職員以外の者が代行して段階確認を実施する場合、監督職員は請負者に対し段階確認実施者の氏名を連絡するものとする。

なお、請負者は監督職員の臨場確認の実施状況について写真撮影を行うものとし、工事写真として整理するものとする。

※留意点：臨場により確認した内容、撮影した写真等は「段階確認書」資料として整理・保管し、検査時に提出するものとする。

3. (結 果)

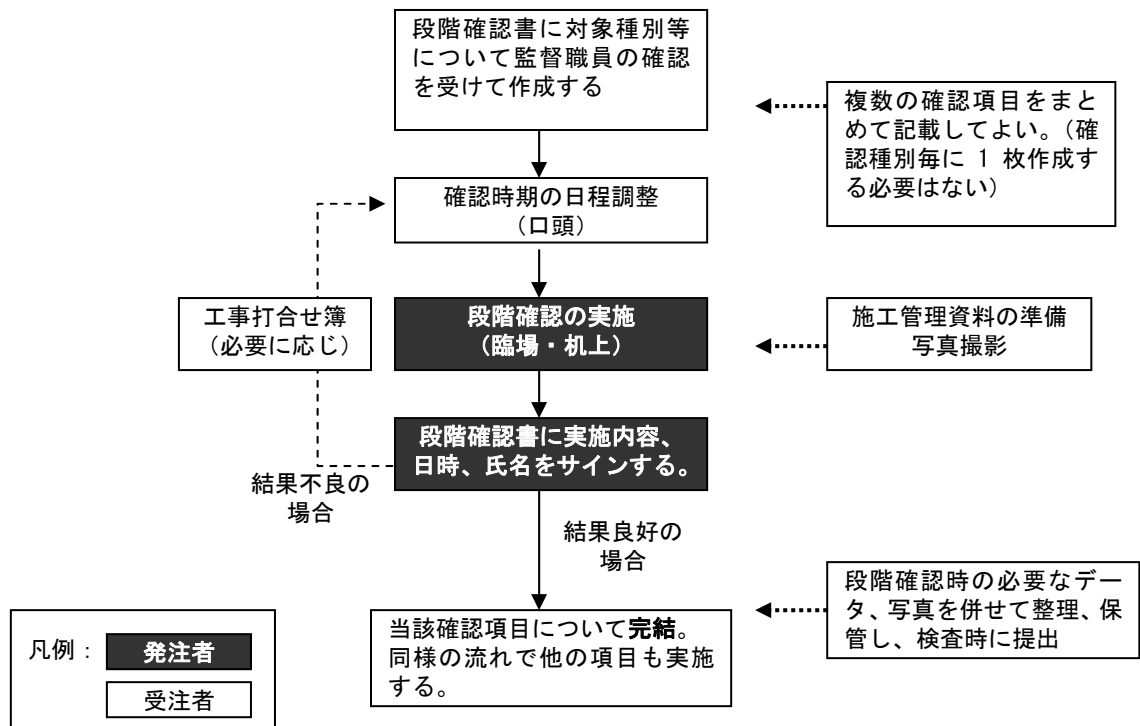
監督職員は、段階確認を実施し、結果が良好であった場合、「段階確認書」の確認項目、確認実施日、確認実施者欄を記入して確認時期毎に完結するものとする。ただし、施工管理基準を満足しない等の問題が発生した場合、当該問題について請負者は必要な措置を講じ、再度、監督職員の確認を受けなければならない。

※留意点：問題に対する措置を講じる必要がある場合、請負者はその原因や対策について監督職員に通知又は協議しなければならない。

(4) 様 式

段階確認書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別紙 1

図－1 段階確認の流れ



段 階 確 認 書

No,

作成日：平成 年 月 日

請 負 者： _____

工 事 名： _____

現場代理人等： _____ 印

番号	種 別	細 別	確 認 時 期	確 認 項 目					確認実施日	確 認 実 施 者
				1	2	3	4	5		

上記種別について、段階確認を実施した。

平成 年 月 日

監督職員： _____ 印

段階確認一覧表（頻度、確認項目）

一：一般工事
重：重点監督

（一・重の記載が無い場合は、一般工事、重点監督に係わらず段階確認を行う）

種 別	細 別	確 認 時 期	確認の頻度	確認項目
指定仮設工		設置完了時	1回/1工事	使用材料、高さ等
河川・海岸・砂防 土工（掘削工） 道路土工（掘削工）		土（岩）質の変化した時	1回/土（岩）質の変化時	土（岩）質の変化位置
道路土工（路床盛土工） 舗装工（下層路盤）		プルフローリング実施時	1回/1工事	プルフローリング実施状況
表層安定処理工	表層混合処理・路床安定処理	処理完了時	一：1回/1工事 重：1回/100m	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚
	置換	掘削完了時	一：1回/1工事 重：1回/100m	〃
	サンドマット	処理完了時	一：1回/1工事 重：1回/100m	〃
バーチカルドレーン工	サンドドレーン 袋詰式サンドドレーン ペーパードレーン	施工時	一：1回/200本 重：1回/100本	使用材料、打込長
		施工完了時	一：1回/200本 重：1回/100本	施工位置、杭径
締固め改良工	サンドコンパクション パイル	施工時	一：1回/200本 重：1回/100本	使用材料、打込長
		施工完了時	一：1回/200本 重：1回/100本	基準高、位置、径
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工時	一：1回/200本 重：1回/100本	使用材料、深度
		施工完了時	一：1回/200本 重：1回/100本	基準高、位置、間隔、杭径
	薬液注入	施工時	一：1回/20本 重：1回/10本	使用材料、注入量
矢板工 （任意仮設を除く）	鋼矢板	打込時 打込完了時	試験矢板＋ 一：1回/150枚 重：1回/100枚	使用材料、長さ、基準高、変位
	鋼管矢板	打込時 打込完了時	試験矢板＋ 一：1回/75本 重：1回/50本	使用材料、長さ、基準高、変位
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	試験杭＋ 一：1回/10本 重：1回/5本	使用材料、長さ、杭の支持力
		打込完了時（打込杭）		基準高、偏心量
		掘削完了時（中堀杭）	試験杭＋ 一：1回/10本 重：1回/5本	掘削長、先端土質
		施工完了時（中堀杭）		基準高、偏心量
		杭頭処理完了時	一：1回/10本 重：1回/5本	杭頭処理状況

種 別	細 別	確 認 時 期	確認の頻度	確認項目
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	試験杭＋ －：1回／10本 重：1回／5本	使用材料、長さ、 杭の支持力
		打込完了時（打込杭）	試験杭＋ －：1回／10本 重：1回／5本	基準高、偏心量
		掘削完了時（中掘杭）		掘削長、先端土質
		施工完了時（中掘杭）		基準高、偏心量
		杭頭処理完了時	－：1回／10本 重：1回／5本	杭頭処理状況
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アースドリル杭 大口徑杭	掘削完了時	試験杭＋ －：1回／10本 重：1回／5本	掘削長、支持地盤
		鉄筋組立完了時	－：30%程度／1構造物 重：60%程度／1構造物	使用材料、設計図書との対比
		施工完了時	－：1回／10本 重：1回／5本	基準高、偏心量、 杭径
		杭頭処理完了時	－：1回／10本 重：1回／5本	杭頭処理状況
深礎工		土（岩）質の変化した時	1回／土（岩）質の変化時	土（岩）質の変化位置
		掘削完了時	－：1回／10本 重：1回／5本	長さ、支持地盤
		鉄筋組立て完了時	1回／1本	使用材料、設計図書との対比
		施工完了時	－：1回／3本 重：全数	基準高、偏心量、 径
		グラウト注入時	－：1回／3本 重：全数	使用材料、使用料
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄杵据付完了時	1回／1構造物	使用材料、位置
		本体設置前（オープンケーソン）		支持層
		掘削完了時（ニューマチックケーソン）		
		土（岩）質の変化した時	1回／土（岩）質の変化時	土（岩）質の変化位置
鉄筋組立て完了時	1回／ロット	使用材料、設計図書との対比		
鋼管井筒基礎工		打込時	試験杭＋ －：1回／10本 重：1回／5本	使用材料、長さ、 支持力、溶接部
		打込完了時		基準高、偏心量
		杭頭処理完了時	－：1回／10本 重：1回／5本	杭頭処理状況
置換工 （重要構造物）		掘削完了時	1回／1構造物	使用材料、幅、延長、 置換厚、地盤
築堤・護岸工		法線設置完了時	1回／1法線	法線設置状況

種 別	細 別	確 認 時 期	確認の頻度	確認項目
砂防ダム		法線設置完了時	1回／1法線	法線設置状況
護岸工	法覆工 (覆土施工がある場合)	覆土前	1回／1工事	設計図書との対比
	基礎工・根固工	設置完了時	1回／1工事	設計図書との対比
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) RC躯体工(橋脚) 橋脚フーチング工 RC擁壁 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時	1回／土(岩)質の変化時	土(岩)質変化位置
		床掘削完了時	1回／1構造物	支持地盤(直接基礎)
		鉄筋組立て完了時	一:30%程度／1構造物 重:60%程度／1構造物	使用材料、設計図書との対比
		埋戻し前	1回／1構造物	設計図書との対比
躯体工 RC躯体工		沓座の位置決定時	1回／1構造物	沓座の位置
床版工		鉄筋組立て完了時	一:30%程度／1構造物 重:60%程度／1構造物	使用材料、設計図書との対比
鋼橋		仮組立て完了時(仮組立てが省略となる場合を除く)	1回／1構造物	キャンバー、寸法等
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時	一:5%程度／総ケーブル数 重:10%程度／総ケーブル数	設計図書との対比
		プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時	一:10%程度／総ケーブル数 重:20%程度／総ケーブル数	設計図書との対比
		PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)	一:30%程度／1構造物 重:60%程度／1構造物	使用材料、設計図書との対比
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	1回／土(岩)質の変化時	土(岩)質変化位置
トンネル支保工		支保工完了時 (支保工変化毎)	1回／支保工変更毎	吹付C _o 厚、ロックボルト本数、長さ
トンネル覆工		施工時(構造の変化時)	1回／構造物の変化毎	設計図書との対比
トンネルインバート工		鉄筋組立て完了時	1回／構造物の変化毎	設計図書との対比

種 別	細 別	確 認 時 期	確認の頻度	確認項目
鋼板巻立て工	フーチング定着 アンカー穿孔工	フーチング定着アン カー穿孔完了時	1回/箇所 (橋脚毎)	削孔長、径、間隔 孔内状況
	板取付け工、固 定アンカー工	鋼板建込み固定アン カー完了時	1回/箇所 (橋脚毎)	施工図との照合 (鋼板割付・形 状・継手形状) 材片の組合せ精度
	現場溶接工	溶接前	1回/工事	仮付け溶接前の開 先面の清掃と乾燥 状況、仮付け 溶接の寸法・外観 状況
		溶接完了時	1回/工事	溶接部の外観状況
	現場塗装工	塗装前	1回/工事	鋼板面の素地調整 状況
		塗装完了時	1回/工事	外観状況
ダム工	各工事で別途定める		各工事で別途定める	

種 別	細 別	確 認 時 期	確 認 の 頻 度	確 認 項 目
浚渫及び床掘	浚渫（土砂）	掘削完了時	1回／工事	設計図書との対比
	浚渫（岩）	掘削前	1回／工事	岩盤線の確認
		掘削完了時	1回／工事	設計図書との対比
	床掘（土砂）	掘削完了時	1回／工事	設計図書との対比
床掘（岩）	掘削前 掘削完了時	1回／工事	岩盤線の確認	
		1回／工事	設計図書との対比	
地盤改良	置き換え 敷砂・砕石マット 載荷	施工時	一：1回／5,000m ³ ・工事・産地 重：1回／2,500m ³ ・工事・産地	使用材料、設計図書との対比
		施工完了時	1回／工事	
	サンドドレーン・ 砕石ドレーン ペーパードレーン サンドコンパクション パイル ロッドコンパクション	施工時	一：1回／200本 重：1回／100本	使用材料、打込長 基準高、施工位置
		完了時	一：1回／工事 重：1回／100本	
	深層混合処理	施工前	1試験練り／工事	使用材料、打込長 基準高、施工位置
		施工時	一：1回／200本 重：1回／100本	
完了時		一：1回／工事 重：1回／100本		
マット		施工時	一：1回／工事 重：2回／工事	使用材料、寸法
捨石及び均し	基礎 被覆及び根固め 裏込め	施工時	一：1回／2,000m ³ ・規格・産地 ・工事（但し、無選別石の場合は 1回／5,000m ³ ・規格 ・産地・工事） 重：1回／1,000m ³ ・規格・産地 ・工事（但し、無選別石の場合は 1回／2,500m ³ ・規格・産 地・工事）	使用材料、寸法
	均し、投入	完了時	1回／規格・工事	設計図書との対比 基準高、幅、勾配
杭及び矢板	鋼管杭 コンクリート杭 鋼矢板及び鋼管矢板 コンクリート矢板	打込み時 打込み完了時	一般土木に同じ	一般土木に同じ
控工	控工	施工時	一：1回／工事 重：2回／工事	設計図書との対比
		完了時	1回／工事	

種 別	細 別	確 認 時 期	確 認 の 頻 度	確 認 項 目
コンクリート工	コンクリートミキサー船	施工前	1 試験練り／工事	使用材料、スランプ、空気量、強度、塩分量
	現場練りコンクリート			
	鉄筋工	組立完了時	－：30%程度／1 構造物 重：60%程度／1 構造物	使用材料、設計図書との対比
	水中コンクリート	完了時	1 回／工事	設計図書との対比
ケーソン	ケーソン製作	施工時	－：2 回／函（但し、底版の配筋は確認必須） 重：4 回／函（但し、底版の配筋は確認必須）	使用材料、設計図書との対比
		完了時	1 回／函	外観・寸法
	ケーソン据付	完了時	1 回／函	設計図書との対比
コンクリートブロック	方塊・異形ブロック製作	鉄筋組立完了時（構造鉄筋がある場合）	－：30%程度／1 工事 重：60%程度／1 工事	使用材料、設計図書との対比
		完了時	1 回／種類・工事	規格・外観・寸法
	方塊・異形ブロック据付	完了時	1 回／工事	設計図書との対比
中詰	中詰	施工時	－：1 回／工事 重：2 回／工事	設計図書との対比
		完了時	1 回／工事	設計図書との対比
	蓋コンクリート	完了時	1 回／工事	設計図書との対比
上部コンクリート	上部コンクリート	完了時	1 回／工事	使用材料、設計図書との対比
付属工	係船柱及び係船環防舷材車止め（縁金物を含む）	完了時	1 回／工事	使用材料、設計図書との対比
	防食	施工時	－：1 回／工事 重：2 回／工事	使用材料、設計図書との対比
		完了時	1 回／工事	設計図書との対比
溶接及び切断	溶接	完了時	1 回／工事	設計図書との対比
	ガス切断	完了時	1 回／工事	
埋立及び裏埋		施工時	－：1 回／工事 重：2 回／工事	使用材料、設計図書との対比
		完了時	1 回／工事	
汚濁防止膜工		施工時	－：1 回／工事 重：2 回／工事	設計図書との対比

施工状況の把握（一般工事、重点監督）

一：一般工事

重：重点監督

（一・重の記載が無い箇所は、一般工事、重点監督に係わらず施工状況の把握を行う）

種 別	細 別	施 工 時 期	把 握 項 目	把 握 の 程 度
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工 深礎工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット
場所打杭工	リバース杭、 オールケーシング杭アー スドリル杭大口徑杭	コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット
重要構造物 函渠工（樋門・樋管を含む） 躯体工（橋台） RC躯体工（橋脚） 橋脚フーチング工 RC擁壁 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット
床版工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット
ポストテンションT（I）桁製作工 プレビーム桁製作工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット
トンネル工		施工時（支保工変更時）	施工状況	1回／支保工変更時

種 別	細 別	施 工 時 期	把 握 項 目	把 握 の 程 度
盛土工 河川 道路 海岸 砂防		敷均し、転圧時	使用材料、敷均し・締固め状況	一：1回／1構造物 重：2～3回／1工事
舗装工	路盤、表層、 基層	舗設時	使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度	一：1回／1工事 重：1回／3,000m ²
塗装工		清掃・錆落とし施工時	施工・錆落とし状況	1回／1工事
		施工時	使用材料、天候、気温	1回／1工事
港湾構造物(RC) 海岸構造物(RC) RC防波堤上部工 RC岸壁上部工 RC護岸上部工 ケソン(本体工) セルラブロック(本体工) L型ブロック(本体工)		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：1回／1ロット (ケソン・セルラブロック・L型ブロックの1ロットは1函(個)とする)
港湾構造物(無筋) 海岸構造物(無筋) 無筋防波堤上部工 無筋岸壁上部工 無筋護岸上部工 水叩き・エプロン消波ブロック(消波工) 直消ブロック(本体工) 普通方塊(本体工)		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	一：1回／1構造物 重：2～3回／1構造物

注) 表中の「把握の頻度」は、確認頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ設定することとする。

1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位(目地)毎とする。

参 考

段階確認書の改定（案）概要

○ 様式の変更 （作成書類の減）

- ・ 段階確認が必要な複数の工種を、まとめて記載できることとした。
（従来のような「確認時期毎」に1枚ずつ作成・提出する必要は無いものとした。）

○ 「施工予定時期の通知（請負者）」と「確認予定日の通知（発注者）」の廃止 （諸手続の減）

- ・ 請負者は、段階確認書を監督職員の確認を得て作成することとし、事前の「通知」は不要とした。（監督職員が手持ちとして必要とする場合は「写し」等を取ることで、書面による「提出」は不要。よって、確認結果等をサインする「段階確認書」は請負者が保管・検査時に提出するものとする。）
- ・ 段階確認の実施日は、請負者からの連絡（口頭）により双方で調整をおこなうものとし、監督職員からの「通知」は不要とした。

～その他～

- ・ 段階確認は、共通仕様書で定められている事項であるため、改めて「特記仕様書」に記載する必要はない。
ただし、共通仕様書に記載がない事項で、独自に段階確認を設定する場合は「特記仕様書」に記載が必要である。
- ・ 段階確認以外の「立会」「確認」をおこなう場合にあって、請負者が「立会願い」を提出する必要はない。（H19 共通仕様書から「立会願い」を削除した。）

段 階 確 認 書

No. 1

使用例

作成日：平成 19年 4月 13日

請 負 者： (株)〇〇建設

工 事 名： 〇〇川 改修工事 (1工区)

現場代理人等： 〇〇 〇〇 印

番号	種 別	細 別	確認時期	確 認 項 目					確認実施日			確認実施者	
				1	2	3	4	5					
1	土工 (掘削工)		土(岩)の変化したとき	変化位置						19	5	21	中島 川太郎
2	矢板工	鋼矢板	打込時	使用材料	長さ					19	5	29	中島 川太郎
3			打込完了時	基準高	変位	「5/30再確認」OK				19	5	30	橋田 玉江
4	護岸工	基礎工・根固工	設置完了時	設計図書との対比						19	6	5	中島 川太郎
													↑サイン

段階確認の結果が良好でなかった場合は、当該項目の欄外等に「再確認」と記入するなど、経緯が判るようにしておく。

確認項目毎に実施日が違った場合は項目毎にサインする。

上記種別について、段階確認を実施した。

最後の段階確認が終了後に記入する。

平成 19年 6月 7日

監督職員： 中島 川太郎 印